

つなげよう つながろう
ふたばのわ



ずっと、ふるさと。
双葉町。

「ふたばのわ」は双葉町の結びつきを
深めるためのコミュニティ紙です。
自治会・団体の活動紹介や町民同士の
新たな交流の場を取材しお伝えしていきます。
「ふたばのわ」を通して町民のみなさんの
つながりや笑い合う場を増やしていけたら。

双葉町民作品展覧会に展示された作品です

- ▶ ふたばワールド 2014 in かわうち～一緒に創ろう…ふたばの明日(P2)
- ▶ ふるさとの祭り～人をつなぐふたばのたから(P3)
- ▶ 県北地区仮設・借上げ自治会合同グラウンドゴルフ大会～共に笑顔で健康に!(P4)
- ▶ 双葉町民作品展覧会 in 第44回勿来地区総合文化展～地域と共に花開く文教の町ふたば(P5)
- ▶ ふたばのわスマイルフォト(P6) ▶ 町からのお知らせ(P7)
- ▶ 放射線モニタリング情報・編集後記(P8)

■発行：双葉町秘書広報課(☎0246-84-5202) ■企画・編集：ふたさぼ(双葉町復興支援員)



インターネットでもつなげようつながろうふたばのわ
(町公式フェイスブックページ)

▶ <http://facebook.com/fukushima.futaba>



タブレットやスマートフォンなどのQRコードリーダーを使いバーコードを読み取ると各イベントの様子を動画で見ることが出来ます

笑顔をつなぐふたばの秋

秋も深まり澄んだ空気が気持ちの良い季節となりました。
今月のふたばのわは「ふたばの秋」をテーマに各地のみなさんの様子を紹介します。



動画をチェック



ふたばワールド 2014 inかわうち

一緒に創ろう…ふたばの明日!

9月28日(日)川内村の川内小学校で「ふたばワールド2014 inかわうち」が開催されました。広域に避難している双葉郡の住民をはじめ多くの方が来場し、その数は6500人にも上ったとのこと。仮設住宅など各所からバスが出るなどして、双葉町からも多くの町民のみなさんが集まりました。

小学生が伝える「双葉町」

参加型ミュージアムとなった校舎内では「ふるさと創造学 学習発表会」として、双葉郡8町村の各学校の取り組みが紹介されました。双葉町立小学校は、授業で行ったインタビューや町民のみなさんとの交流で学んだことをまとめた新聞、児童が作成した双葉町の模型、双葉ダルマなどを展示しました。来場者に直接児童が説明する場面もあり、子どもたちの言葉で双葉町を伝える機会になりました。

「ふるさと」をみんなで作る

体育館では、復興大臣政務官の小泉進次郎さんと詩人の和合亮一さんによる模擬授業が行われました。参加した児童・生徒は94人、双葉町からも7人が参加しました。小泉さんから「この授業は、学校の授業とは全然違うもの。正解もない。好きなことを言ってい場所です」と説明がありました。「ふるさと」とはどんなところか、「いま何を学びたいか」「どんな「ふるさと」にしていきたいか」という3つのテ

マで、学年も学校も違うグループのメンバーで話し合います。はじめはおそろいという感じだった生徒たちも、少しずつ自分の言葉で話し出し、90分の授業が終わるころにはすっかり打ち解けた様子でした。

授業の終わりには和合さん作の詩「決意」を体育館にいる全員で声に出して読みました。「福島に生きる、福島を生きる」という言葉が印象的な詩。全員の声が重なることで、みんなの心も重なったように感じられました。

「ふたば」を伝える

校庭では「標葉せんたん太鼓保存会」が演奏を披露しました。メンバーが各地に避難しており全員が集まって練習できないためぶっつけ本番のステージとのことでしたが、激しい中にも夏が終わるときの切なさが感じられる見事な演奏でした。会場からは「ブラボー!」「お見事!」など惜しみない声援と拍手が送られました。

また売店では「夢ふたば人」がかき氷と綿あめを販売。夢ふたば人代表の中谷さんは「自分たちが動くことで、今の双葉町はこんなことをやっているぞということを伝えたいと思って出店した」と話していました。

双葉郡8町村の想いと願いがこもった「ふたばワールド2014 inかわうち」。来場者の一人ひとり、ふたばの明日を考える一日となりました。



動画をチェック



ふたばの祭り

人をつなぐふたばのたから

10月4日(土)、5日(日)、福島市四季の里で「ふるさとの祭り2014」が開催されました。このイベントは、震災後ますます継承が難しくなっている伝統芸能を次世代に受け継いでいくために、県と実行委員会の主催で行われています。

双葉町からは「山田芸能保存会」「新山芸能保存会」2前沢女宝財踊り芸能保存会」の3団体が出演しました。

山田のじゃんがら念仏踊り

山田のじゃんがら念仏踊りは山田芸能保存会により継承されており、震災前は、山田地区の八幡神社での奉納の他、盆踊りや地区の新盆の家を回り、ご先祖様や故人の供養を行っていました。

山田芸能保存会は、震災後初めて開催された「ふるさとの祭り2012」以来、3年連続の出演です。他にもいわき市や東京など各地で踊りを披露しています。今回からは会員のご家族の小学生2人も参加しました。楽しそつだったから始めてみたという2人。大人たちに混じってしっかりとリズムを刻んでいる2人の姿は、伝統を受け継いでいくための大きな力になると頼もしく感じられました。

新山の神楽

新山の神楽は消防団に所属するメンバーを中心に組織された新山芸能保存会によって継承されています。秋葉神

社の祭礼や浜下り神事、ダルマ市での奉納の他、お正月には各戸の門口で演じられていました。「黒い獅子頭」と「暴れ獅子」が特徴です。

新山の神楽の奉納は今年1月のダルマ市以来、震災後2回目。当日朝、たった一度の練習でステージへ上がりましたが、長年やってきているメンバーは拍子や舞が体に染みついているように、息の合った神楽を披露してくれました。

前沢女宝財踊り

宝財踊りは、現在の南相馬市の日吉神社の浜下り神事で継承されている芸能の一つで、相馬農業高校の卒業生が相双方各地に広めたとされています。本来は男性が踊るものですが、女性だけが継承する団体は相双地区でも前沢女宝財踊り芸能保存会だけとなっています。

2012年のふるさとの祭りに出場した際、このような発表の場があるからこそ、みんなが集まれるし、自分達の踊りがたくさんの方に感動と勇気を与えられると、伝統芸能を披露することの意義を実感しました。その後はふるさとの祭りだけでなく、ダルマ市でも踊りを披露しています。

伝統は人を結びつける

これまでの様々な苦難を乗り越えながら、地域の人の強い絆で守り抜かれ、代々受け継がれてきた祭りや伝統芸

能。それがあつたことで、準備や稽古、上演のために世代を超えた仲間が集まります。その傍らお茶を飲み、話に花を咲かせることで維持されてきたのが地域のつながりや絆です。

このふるさとの祭りを通して、祭りや伝統はこれまであたり前にあつた絆を深め、それを実感できる地域の大きな「たから」であると改めて感じました。





共に笑顔で健康に!

東北地区仮設・借上げ自治会 合同グラウンドゴルフ大会

「再会」と「再開」の笑顔

9月26日(金)、福島市の北幹線第二仮設住宅で開催された「グラウンドゴルフ大会」。仮設・借上げ自治会合わせて、35人が参加しました。双葉町でグラウンドゴルフをやっていたみなさんにとっては久しぶりの大会となる方も多かったようです。楽しくおしゃべりに花を咲かせながらも、プレーをするときは真剣です。参加者のみなさんからは、震災前の趣味を再開できたことを喜ぶ声や大会に参加することで久しぶりに友人と顔を合わせることができてうれしいなどの声が聞かれ、ただスポーツをするということ以上の価値のある一日となりました。

空もプレーも晴れ模様

当日は、夏に戻ったかのような見事な快晴。参加者は3〜4人を1グループとし、9グループに分かれ8つのコースを2周しました。順位は個人スコアで競います。景品もたくさん準備され、みなさんやる気十分の様子。初心者の方も経験者に教えてもらいながら楽しみました。

まだまだ腕はおとろえず!?

大会はホールインワンが7回も出るなど大いに盛り上がり、そのうち2回は優勝者によるものです。「こんなこと生まれて初めて!」と照れながらも大喜び。そのほかの参加者からも「双

葉高校前の河川敷で大会をやっていたよね」「老人会で始めたのだけど、震災でやめていたの。久しぶりにプレーできてうれしい」など、グラウンドゴルフの思い出話とたくさん笑顔が生まれました。

一人の自治会長の思いが重なる

「震災から3年半が過ぎ、仮設住宅から退去される方も多くなります。これからは仮設・借上げ関係なく交流していくことが大切です」開会式でこう話されたのは北幹線第二応急仮設住宅自治会堀井五郎会長。生活の不安や寂しさを少しでも和らげてほしいと、両自治会合同のグラウンドゴルフ大会を提案しました。

そんな堀井会長の思いに東北ふたば会(東北地区借上げ住宅自治会) 鴻崎太郎会長が応えます。鴻崎会長は閉会の言葉で「仮設・借上げ自治会合同での開催は非常に価値のあること。慣れない土地での生活が続くので、身体には気を付けてください」と話されました。

そんな両自治会の思いが合同グラウンドゴルフ大会。この大会をきっかけに、また新しい交流の場が生まれていくことでしょう



鴻崎会長(左)堀井会長(右)

ホールインワンを出した6人の参加者





動画をチェック



地域と共に花開く文教の町ふたば

双葉町民作品展覧会 in 第44回勿来地区総合文化展

たくさんの方に作品を
みてほしい...

「手芸をやっているが、作っても置く場所や披露する機会がない」「ダルマ市の時に開催していた作品展をまたやってほしい」

震災後、町民のみなさんからこのような声が多く聞かれました。

そんな時、毎年勿来地区で開催されている文化展に双葉町からも作品を展示してもらえないかと、文化展実行委員長佐藤慶子さんに声をかけていただきました。

10月18日（土）、19日（日）に開催された勿来地区総合文化展は今年で44回目を迎えます。双葉町からの出品は2回目ですが、今回はこの文化展に双葉町民作品展覧会を組み入れた形で行われました。

作品に込められた想い

開催にあたり、町民のみなさんに作品募集をしたところ、県内外から約200作品の応募がありました。集まった作品は、双葉町芸術文化団体連絡協議会会員のみなさんの水墨画や刻字など本格的なものから、つるし雛やエコクラフトなど身近なものまで。我が子のように育てたという山野草や震災が起きた午後2時46分を想い246個の花で作ったつるし雛など、作品ひとつひとつに込められた想いも様々です。

笑顔あふれる交流の場

展覧会当日は、ここに来れば双葉の人に会えると思いい足を運んだという方も。震災後初めての再会に手を取り合って喜ぶ姿が印象的でした。

また、勿来地区の方も双葉町のブースを訪れ、双葉町民のみなさんと共通の趣味や普段の生活のことなど、楽しそうに話をする場面も見られました。作品を見た地域の方からは、勿来地区の施設に展示してほしい、老人クラブの手芸教室に参加したい、などの声も聞かれました。

展覧会で得た大切なもの

たくさんの方の協力があつて開催された展覧会。前日から、会場に自作の品を持ち寄ったみなさんも地域の方と会場づくりや展示を行いました。

この展覧会を通じてたくさんの方の交流と、地域や地域の人とのつながりが生まれました。想いを込めて作った自分の作品をたくさんの方に見てもらうことで、制作意欲が湧き、今後の生きがいづくりにもつながります。作品披露以上の大きなものを得られたことでしょう。

12月には郡山市で、双葉町総合美術展との町民作品展覧会が同時開催されます。懐かしい再会、新しい出会い、たくさんの方の交流の場となるよう、みなさまのお越しをお待ちしております。



第27回 双葉町総合美術展・ 双葉町民作品展覧会

日時

平成26年12月
2日(火) 13時～17時
3日(水) 10時～15時

場所

郡山ビッグアイ6階展示室
(福島県郡山市駅前二丁目11-1)

ふたばのわ スマイルフォト

～笑顔でみんなをつなげたい～



9月18日
はなみずき婦人学級@
加須市をぐるっとバスツアー(加須市)



9月20日
第2回成人式実行委員会(郡山市)



10月8日
サポートセンターひだまり
運動会(いわき市)



10月9日
双葉町避難地域住民交流会
@磐梯熱海(郡山市)



10月10日
せんだん広場民謡教室(郡山市)



10月12日
霞ヶ浦まるごとグルメフェス2014
(かずみがうら市)



10月17日
双葉町社会福祉協議会加須事務所
いきいきサロン運動会(加須市)



10月16日
なこそ復興プロジェクト
相双地区サロン(いわき市)



10月17日
第6回白河男の料理教室
(白河市)



ふくしま 大卒等合同就職面接会を開催します

平成 27 年 3 月新卒予定の方、平成 24 年 3 月以降卒業で、現在就職活動中の方を対象に、正社員で雇用する計画のある県内企業との面接会を開催します。奮ってご参加ください。

【開催日時】平成 26 年 11 月 26 日（水）

【タイムテーブル】12:30～12:50 オリエンテーション
12:50～13:50 事業所 PR タイム
14:00～16:00 合同就職面接会

若者応援企業を中心に、県内企業100社が参加予定!

【会場】ビッグパレットふくしま 多目的展示ホールB・C
(郡山市南二丁目 52 番地)

【問い合わせ先】

福島労働局職業安定課 TEL024-529-5396

【主催】厚生労働省福島労働局、福島・郡山新卒応援ハローワーク、福島県

【その他】

- ① 事前申込不要、お気軽にお越しください
- ② 参加事業所は、開催 1 週間前までに福島労働局ホームページ上で公開します
- ③ 事業所のブースにおける人事担当者との個別面談、ハローワーク等各機関による職業相談・情報提供等を行います

住宅再建の二重ローン返済を支援します

福島県では、東日本大震災で被災した住宅にローンが残っている方が、新たな資金を借り入れて福島県内に住宅を再建等される場合、既存の住宅ローンの 5 年間分の利子相当額を補助します。

補助金（利子補給金）は、新たな資金を借り入れる金融機関等を通じてお申込みいただけます。住宅ローンを取り扱う金融機関等にご相談ください。

補助の対象となる方 次の①～③すべてに該当する方

- ① 東日本大震災により自らが居住していた住宅が被災し、市町村から「全壊」「大規模半壊」「半壊」のうちいずれかの「り災証明書」の発行を受けた方
- ② 平成 23 年 3 月 11 日の時点で、被災住宅に対し融資残高（複数の借り入れがある場合はその合計額）が 500 万円以上の既存住宅ローンがある方
- ③ 福島県内に自ら居住するための住宅に対し、借入額（複数の借り入れがある場合はその合計額）が 500 万円以上の新規住宅ローンがある方

補助額

新規住宅ローンを契約した時点の、既存住宅ローン債務残高と利率等に基づき、元利均等毎月償還方式で算定した今後 5 年間分の利子相当額を、140 万円を上限に一括交付します。

※「既存住宅ローン」：住宅の建設、購入、増改築、補修を目的に融資機関から借り入れをした資金で、平成 23 年 3 月 11 日以前に金銭消費貸借契約を契約したもの

※「新規住宅ローン」：住宅の建設、購入、増改築、補修を目的に融資機関から借り入れをした資金で、平成 23 年 3 月 11 日～平成 28 年 2 月末に金銭消費貸借契約を締結したもの

申込みの手続き

① 融資残高等証明書の入手

既存の住宅ローンを借り入れている金融機関等から、融資残高等証明書の発行を受ける（発行依頼にあたっては新規の住宅ローンの金銭消費貸借契約書の写しを添付）

② 金融機関への委任

次の書類を添付し、新規の住宅ローンを借り入れた金融機関等に委任状を提出

（ア）市町村長が発行する「り災証明書」

（イ）既存の住宅ローンの借入金金融機関等が発行した「融資残高等証明書」

（ウ）他の融資機関からも新たな住宅ローンの借入がある場合は、その「金銭消費貸借契約書の写し」（委任する金融機関等からの借入だけで 500 万円以上となる場合は不要）

※補助金（利子補助金）は、委任した金融機関等を通じて指定した口座に支払われます

注意

- ・ 交付事務の手続きを委任できるのは、県と事務処理に係る協定を締結している金融機関等となります。
- ・ 委任可能な金融機関等や詳しい手続き方法については、県のホームページでご確認ください
- ・ 「融資残高等証明書」および委任状の用紙は、県のホームページからもダウンロードできます
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41065b/nizyuloan.html>

【問い合わせ先】被災者向け住宅相談窓口専用ダイヤル ▶ TEL024-521-7698 (平日午前 9 時から午後 5 時まで)
福島県土木部建築指導課 ▶ TEL024-521-5764 FAX024-522-6383



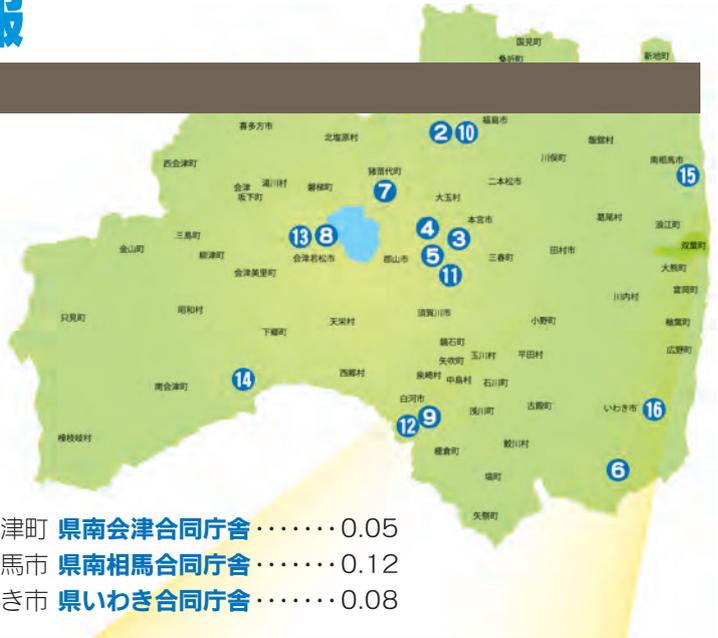
放射線モニタリング情報

福島県内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

平成26年10月24日

- ①福島市 北幹線第二応急仮設住宅……………0.16~0.27
- ②福島市 さくら応急仮設住宅……………0.10~0.19
- ③郡山市 日和田応急仮設住宅……………0.16~0.29
- ④郡山市 喜久田応急仮設住宅……………0.10~0.80
- ⑤郡山市 富田応急仮設住宅……………0.21~0.36
- ⑥いわき市 南台応急仮設住宅……………0.05~0.07
- ⑦猪苗代町 上川原応急仮設住宅……………0.07~0.09
- ⑧会津若松市 第二中学校西応急仮設住宅……………0.08~0.10
- ⑨白河市 郭内応急仮設住宅……………0.11~0.16
- ⑩福島市 県北保健福祉事務所……………0.24
- ⑪郡山市 県郡山合同庁舎……………0.14
- ⑫白河市 県白河合同庁舎……………0.10
- ⑬会津若松市 県会津若松合同庁舎……………0.07

- ⑭南会津町 県南会津合同庁舎……………0.05
- ⑮南相馬市 県南相馬合同庁舎……………0.12
- ⑯いわき市 県いわき合同庁舎……………0.08



双葉町内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

地区	地点	平成24年 4月1日	平成26年 10月24日
新山	新山公衆トイレ脇公営駐車場	—	1.03
新山	新山公民館	—	0.67
新山	双葉町歴史民俗資料館	—	0.58
新山	双葉南小学校	—	0.70
新山	双葉中学校	—	0.95
新山	県立双葉高等学校	—	1.21
新山	中央公園	—	0.81
下条	双葉総合公園	2.60	1.35
下条	双葉町役場	—	0.40
郡山	郡山公民館	1.48	0.80
細谷	細谷公民館	2.31	1.00
三字	三字公民館	2.53	1.29
山田	山田農村広場	24.47	10.92
石熊	石熊公民館	12.10	5.79
長塚	双葉町体育館	6.25	2.73
長塚	長塚二公民館	3.26	1.44

地区	地点	平成24年 4月1日	平成26年 10月24日
長塚	双葉町青年婦人会館	—	3.01
長塚	町西住宅	—	0.67
長塚	JAふたば北部営農センター	—	9.04
長塚	双葉北小学校	—	2.60
長塚	ふたば幼稚園	—	2.29
長塚	双葉駅北側駐車場	—	1.59
長塚	双葉町児童館	—	0.48
羽鳥	上羽鳥	1.89	1.09
羽鳥	羽鳥公民館	1.73	0.80
寺松	寺松公民館	3.46	1.68
渋川	渋川公民館	1.48	0.71
鴻草	北部コミュニティーセンター	4.30	2.24
中田	中田公民館	0.77	0.42
両竹	両竹公民館	0.54	0.27
浜野	浜野公民館	0.34	0.18

原子力規制委員会ホームページより

※全国及び福島県の空間線量測定結果については原子力規制委員会ホームページでご覧になれます。▶<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

編集後記

『双葉町のみなさんの笑顔や活動をもっと見えるようにしたい!』
そんなひと言から制作が決まったコミュニティ紙。その後、名前が『つなげよう つながろう ふたばのわ』になりました。平成25年11月15日に第1号を発行し、今月号で13号目。創刊からあという間に1年が経ちました。これまでに、自治会活動の紹介や盆踊り、タルマ市などの様子、成人式や駅伝大会など、各地に取材に行

き、みなさんの笑顔を記事にしてみました。
おかげさまで『ふたばのわ』も少しずつ成長し、多くの方から『写真みたよ!』『あの記事よかったね!』と言っていただけるようになってきました。本当にたくさんの方々にご協力いただき、歩んでこれました。この場を借りて御礼申し上げます。
みなさんと一緒にふたばのわを広げていくために、これからも、たくさん笑顔を伝えていきたいと思っています。今後とも『ふたばのわ』をどうぞよろしくお願いいたします。(ふたさぼ 小林)

「ふたばのわ」に参加しませんか?

「ふたばのわ」では「後世に残したい双葉町」をテーマに、みなさんから写真を募集しています。お名前・出身行政区を記載の上、以下の方法でご送付をお願いします。

【郵送の場合】 〒974-8212 福島県いわき市東田町2-19-4
「双葉町いわき事務所内ふたさぼ」宛

【メールの場合】 info@futabamachi-s.com

(写真例)



ご応募
お待ちして
います!

